

# 銚子漁港における近海旋網漁船群の主要本拠地

篠原 秀一

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| I はじめに               | III 近海旋網漁船群の生産性別主要本拠地         |
| II 近海旋網漁船の主要本拠地別水揚げ  | III-1 1回あたりの水揚量からみた主要本拠地      |
| II-1 主要本拠地別水揚量の年次変化  | III-2 平均魚価からみた主要本拠地           |
| II-2 主要本拠地別水揚金額の季節変化 | III-3 1回あたりの水揚金額からみた<br>主要本拠地 |
|                      | IV むすび                        |

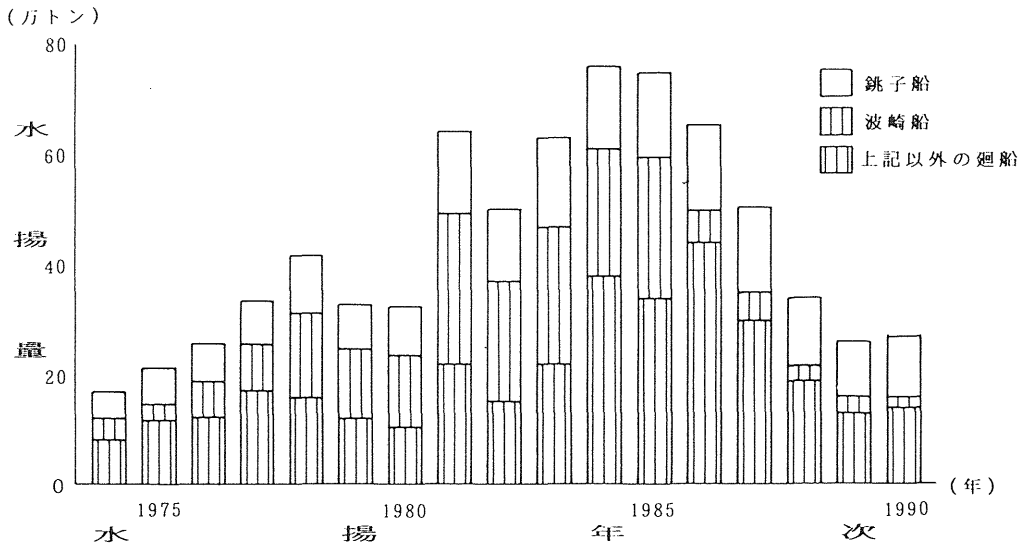
## I はじめに

沖合漁船，特に近海旋網漁船は，漁場の移動に伴う周年操業のため，水揚地を季節的に変えることが多い。これは，水揚地から見れば，水揚漁船の本拠地の地理的範囲が季節的に変動することである。本稿の目的は，その規則性を年次推移とともに銚子漁港において見出すことである。銚子漁港は全国有数の大量水揚漁港で，近海旋網漁船の水揚量が20年以上，常に総水揚量の80%以上を占めてきた。

近海旋網漁船とは，日本の沖合において原則として日帰り操業をする旋網漁船で，主として大中型旋網漁船を指す<sup>1)</sup>。その主な漁獲対象は，マイワシ，カタクチイワシのイワシ類，アジ類，マサバ，カツオ及びマグロ類である。

筆者はすでに，銚子漁港における近海旋網漁船群あるいは波崎町の近海旋網漁船群の季節操業について若干の報告をした<sup>2)</sup>。今回は，銚子漁港魚市場の資料をもとに水揚げ統計をまとめ，漁船群の年間水揚量が500トン以上，あるいは年間水揚金額が該当の総水揚金額の1%以上である漁業本拠地<sup>3)</sup>を主要本拠地とし，その年次・季節変化を考察した。漁業本拠地は「漁業経営の本部所在地」を意味し，「操業上の現場本部の所在地」である漁業根拠地とは異なる。すなわち，考察の対象とする近海旋網漁船は，銚子漁港を漁業根拠地とし，地元銚子も含めて全国にそれぞれ本拠地を有する。

銚子漁港における近海旋網漁船の水揚量は，1974年の16万9,064トンから1984年の75万7,582トンまで増加し，その後，1990年まで1977年の水準へと減少した（第1図）<sup>4)</sup>。水揚量の増加は，主要な漁獲対象であるマイワシとマサバの資源増加と漁船群の漁獲能力の向上を背景とし，逆に，水揚量の減少は，マイワシとマサバの資源減少が主たる要因と考えられる。水揚げ漁船の所属をみると，廻船（外来船）の水揚量が全体の最低でも30%，最高で68%を占めた。準地元の波崎船の水揚量も，1985年までは全体の最低でも13%，最高では44%を占めた<sup>5)</sup>。銚子漁港における近海旋網漁船の大量水揚げは，地元銚子の漁船群に加えて，準地元の波崎，そしてその他の外来漁船群による水揚げにより支えられる。本稿では，同様な操業形態を有する銚子と波崎の漁船群をひとまとまりと考え，他地の漁船群と対照しながら，銚子漁港における近海旋網漁船の水揚げを考察する。



第1図 銚子漁港における近海旋網漁船水揚量の本拠地別年次推移（1972-1990年）  
（「銚子市漁業協同組合地方卸売市場水揚統計表」から作成）

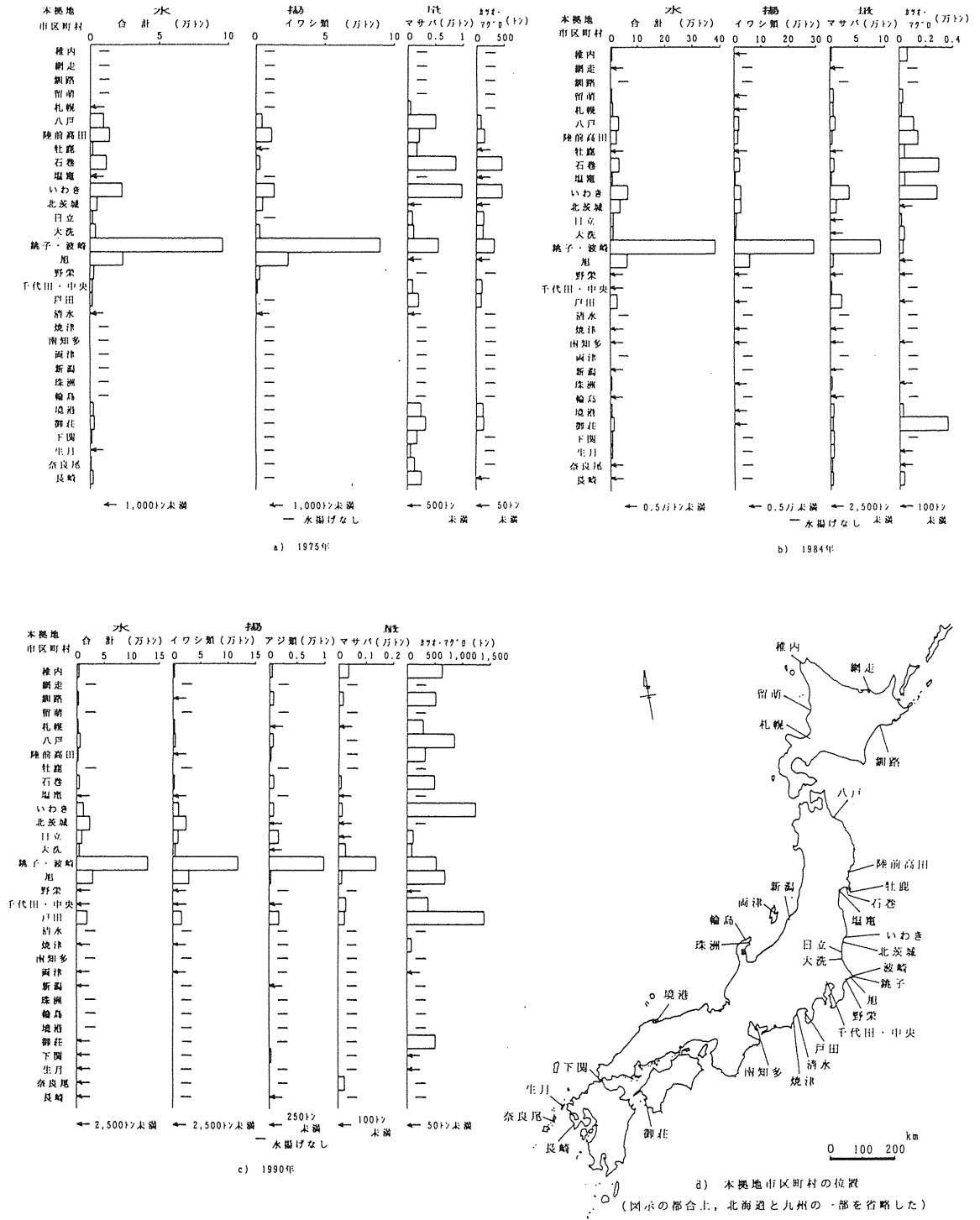
## Ⅱ 近海旋網漁船の主要本拠地別水揚げ

### Ⅱ-1 主要本拠地別水揚量の年次変化

第2図は、銚子漁港に水揚げする近海旋網漁船の主要本拠地別水揚量を、1975年、1984年、1990年について示した。1984年は銚子漁港で過去最高の水揚年、1975年は詳細な市場資料の存在する最も古い年、1990年は総水揚量の減少が停止した年として、分析対象年に選択した。以下では、各年の合計水揚量とともに、漁獲対象別にイワシ旋網（マイワシ、カタクチイワシ等のイワシ類）、サバ旋網（マサバ）、カツオ・マグロ旋網（カツオ及びマグロ類）の水揚量の推移を検討する。

1975年における合計水揚量は21.0万トンで、主要本拠地別に見ると、銚子・波崎、旭、いわきを中核に、陸前高田、石巻が上位を占めた。この本拠地の分布域は、北海道から九州まで全国に及ぶが、千葉県以北の東日本太平洋岸が中心であった。イワシ旋網の水揚量は全体で15.7万トンで、銚子・波崎、旭を中核に、いわき、陸前高田が水揚量の上位を占め、主要本拠地の分布は東日本に限られた。サバ旋網の水揚量は全部で5.06万トンで、いわき、石巻、銚子・波崎、八戸を中核に、御荘、長崎、境港が上位を占めた。サバ旋網の主要本拠地は、イワシ旋網よりも偏りなく全国に分布した。カツオ・マグロ旋網の全体水揚量は0.2万トンで、いわき、石巻、銚子・波崎を中核に、陸前高田、御荘、境港、大洗など、主要本拠地が全国に点在した。

1984年における合計水揚量は75.8万トンで、1975年の3.6倍に増加した。その主要本拠地別水揚量は、銚子・波崎を中核に、いわき、旭、北茨城が上位を占めた。1975年に比べて、西日本の本拠地の水揚げが増加し、主要本拠地が全国により分散した。イワシ旋網は、水揚量が49.2万トンと1975年の3倍に増加し、その本拠地別水揚量は、銚子・波崎、旭を中核に、いわき、北茨城、石巻、八戸、陸前高



第2図 銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地別水揚量の年次推移 (1975年, 1984年, 1990年)  
 (銚子漁港魚市場資料から作成)

田の順に多かった。1975年と同じく、イワシ旋網の主要本拠地は、東日本太平洋沿岸に偏在した。サバ旋網の水揚量は25.3万トンで、1975年の約5倍に増加した。銚子・波崎、いわきを中核に、戸田、北茨城、八戸、石巻の漁船群の水揚量が多く、その主要本拠地は1975年と同様に、イワシ旋網よりも偏りなく全国に分布した。カツオ・マグロ旋網では、水揚量が1975年の約6倍の1.2万トンとなり、水揚漁船の主要本拠地の分布が多少広がった。その主要本拠地には、御荘、石巻、いわき、陸前高田を中核に、八戸、稚内などがあげられる。

1990年における合計水揚量は26.4万トンで、1984年の35%に減少し、1975年の1.25倍に相当した。その主要本拠地別水揚量は、銚子・波崎、旭を中核に、北茨城、戸田、いわきの順に多かった。イワシ旋網の水揚量は23.4万トンと1984年の半分以上に減少し、銚子・波崎、旭、北茨城を中核に、戸田、いわきの順に多かった。水揚量上位の主要本拠地は、1975年と1984年の場合と同様に西日本には見あたらない。ただし、1984年に比べて、石巻、陸前高田、八戸の割合が相対的に低下し、主要本拠地の全体的な分布域が狭まった。アジ旋網は、それまでイワシ類と若干混獲されていたアジ類の水揚量を分別するため、1987年以降にイワシ旋網と区別するようになったものである。その水揚量は、1987年に231トン、1988年に4,063トン、1989年に7,007トン、1990年に17,639トンと急増した。1990年のアジ旋網は、銚子・波崎を中核に、戸田、日立、北茨城、石巻、八戸、釧路等が主要本拠地で、その分布は東日本中心であった。サバ旋網の水揚量は3,507トンに減少し、1984年の1.4%、1975年の7%にすぎなかった。サバ旋網は、銚子・波崎、稚内を中核に、千代田・中央（東京）大洗、戸田、奈良尾、釧路、いわきのように、水揚げ上位の主要本拠地が変動し、その分布域が1984年及び1975年よりもかなり狭まった。カツオ・マグロ旋網は、水揚量が1984年の約7割、1975年の約4倍にあたる8,317トンであった。その主要本拠地は、戸田、いわき、八戸を中核に、旭、稚内、銚子・波崎、釧路、御荘、石巻が水揚量上位を占め、全般的な分布は1984年とあまり変わらない。

## II-2 主要本拠地別水揚金額の季節変化

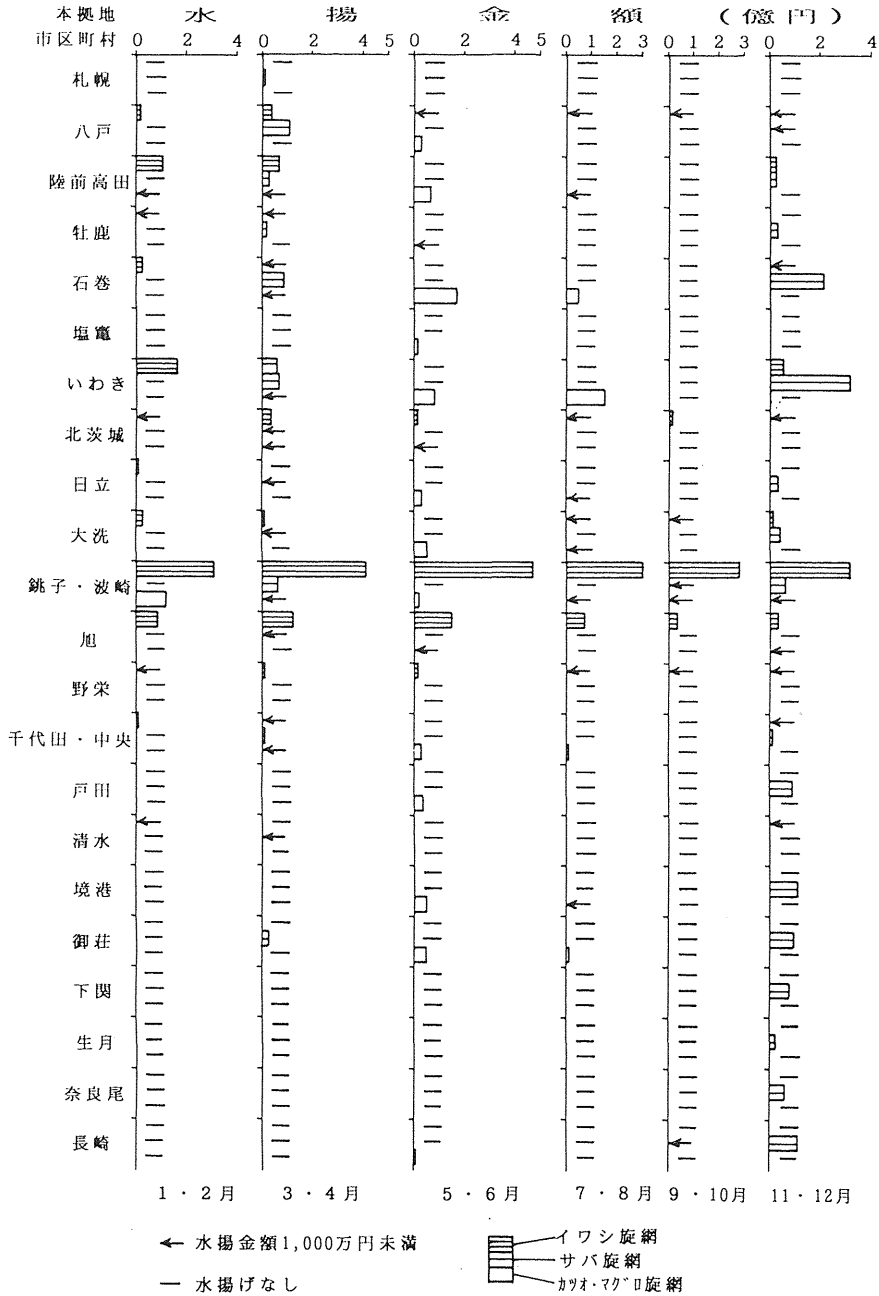
本節では、水揚げの中核を成す漁船群の主要本拠地として、水揚金額全体の1割以上を分担する期間のさらにその1割以上を分担した主要本拠地を、中核的本拠地と考える。

### 1) 1975年

1975年の銚子漁港における近海旋網漁船の水揚金額は、銚子・波崎、いわきを中核とし、石巻、旭、陸前高田、八戸、御荘、大洗、戸田、長崎の順に多かった（第3図）。

イワシ旋網の総水揚金額は20.8億円で、1・2月に4.75億円、3・4月に3.85億円、5・6月に1.92億円、7・8月に0.96億円、9・10月に0.59億円、11・12月に1.45億円であった。中核的本拠地は、1・2月の銚子・波崎、いわき、陸前高田、旭、3・4月の銚子・波崎、旭である。主要本拠地の分布は、水揚金額の多い1・2月と3・4月ほど広域にわたった。

サバ旋網の総水揚金額は17.9億円、11・12月、3・4月の順に多く、3・4月に4.72億円、9・10月に0.08億円、11・12月に13.1億円であった。中核的本拠地は、3・4月の八戸、石巻、いわき、銚子・波崎、11・12月のいわき、石巻で、11・12月には長崎、境港の漁船群も1億円以上のサバを水揚



第3図 銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地別水揚金額の季節推移 (1975年)  
(銚子漁港魚市場資料から作成)

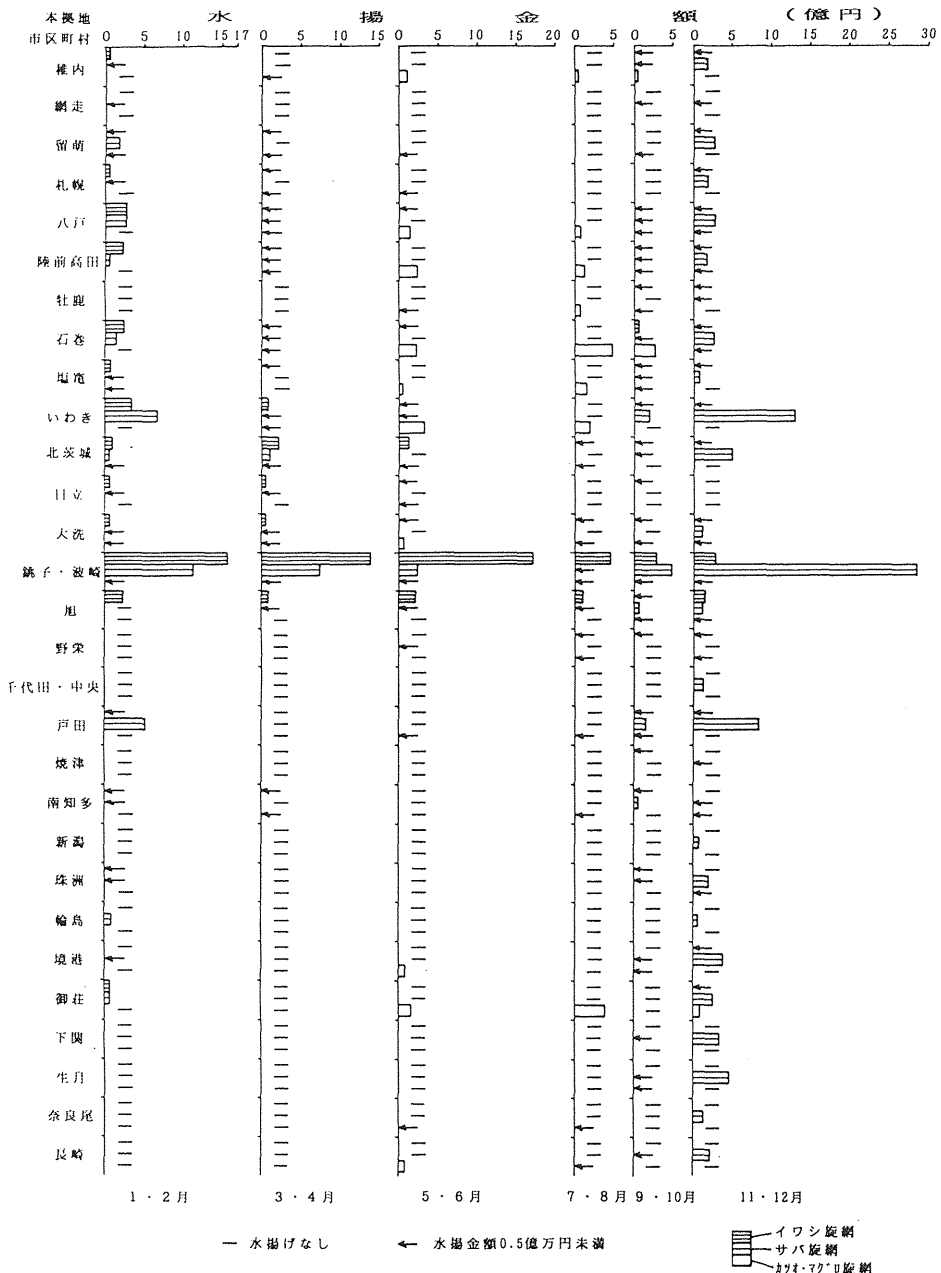
げした。3・4月の水揚漁船群が比較的東日本に偏っていたのに対して、11・12月の水揚漁船群の主要本拠地は西日本にも広く分布し、その比重も増した。

カツオ・マグロ旋網の総水揚金額は10.6億円、1・2月に1.22億円、3・4月に0.04億円、5・6月に6.74億円、7・8月に2.44億円、9・10月に0.01億円、11・12月に0.1億円で、夏季に水揚げの

中心がある。主要本拠地は、水揚金額の多い夏季に最も広域にわたる。中核の本拠地は、1・2月の銚子・波崎、5・6月の石巻、いわき、陸前高田、7・8月のいわき、石巻であった。

2) 1984年

1984年の銚子漁港における近海旋網漁船の水揚金額は、銚子・波崎、いわきを中核とし、石巻、戸田、旭、北茨城、八戸、御荘、陸前高田、稚内の順に多かった(第4図)。



第4図 銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地別水揚金額の季節推移(1984年)  
(銚子漁港魚市場資料から作成)

イワシ旋網の総水揚金額は95.2億円で、1975年の約4.6倍に増加した。2か月間水揚金額は、1・2月が33.1億円、3・4月が21.6億円、5・6月が21.9億円、7・8月に6.89億円、9・10月が5.88億円、11・12月が5.80億円で、1月から6月の水揚金額が多い。主要本拠地の分布は、7・8月に最も狭まり、3・4月と5・6月よりも水揚金額の少ない9・10月、11・12月と、最も水揚金額の多かった1・2月に広域にわたった。中核的本拠地には、1・2月の銚子・波崎といわき、3・4月及び5・6月の銚子・波崎があげられる。このほか、1億円以上の水揚金額のあった主要本拠地には、1・2月には八戸、旭、石巻、陸前高田、3・4月には旭、5・6月には旭、北茨城が該当した。

サバ旋網の総水揚金額は153.5億円で、1975年の8.6倍にあたる。2か月間水揚金額は、1・2月が32.8億円、3・4月が10.0億円、5・6月が2.66億円、7・8月が0.6億円、9・10月が11.7億円、11・12月が95.7億円で、11・12月と1・2月の水揚金額が突出していた。主要本拠地は、11・12月に最も広く分布し、9・10月の分布がそれに準じ、1・2月の分布が次に広い。西日本の主要本拠地の漁船群は、9月から12月の間に水揚げを集中させた。中核的本拠地は、1・2月が銚子・波崎、いわき、戸田、11・12月が銚子・波崎、いわきであった。このほか、水揚金額1億円以上の主要本拠地には、1・2月に八戸、石巻、留萌、11・12月に西日本を含むほとんどすべての主要本拠地が該当した。

カツオ・マグロ旋網の総水揚金額は40.2億円で、1975年の3.8倍に増加した。2か月間水揚金額は、1・2月が0.04億円、3・4月が0.94億円、5・6月が17.0億円、7・8月が17.2億円、9・10月が4.47億円、11・12月が0.51億円であった。主要本拠地は、水揚金額の多い5月から8月が最も分布域が広がった。中核的本拠地は、5・6月のいわき、陸前高田、石巻、7・8月の石巻、御荘、いわき、9・10月の石巻、稚内である。このほか、水揚金額1億円以上の主要本拠地には、5・6月に御荘、八戸、稚内、7・8月に塩竈が該当した。

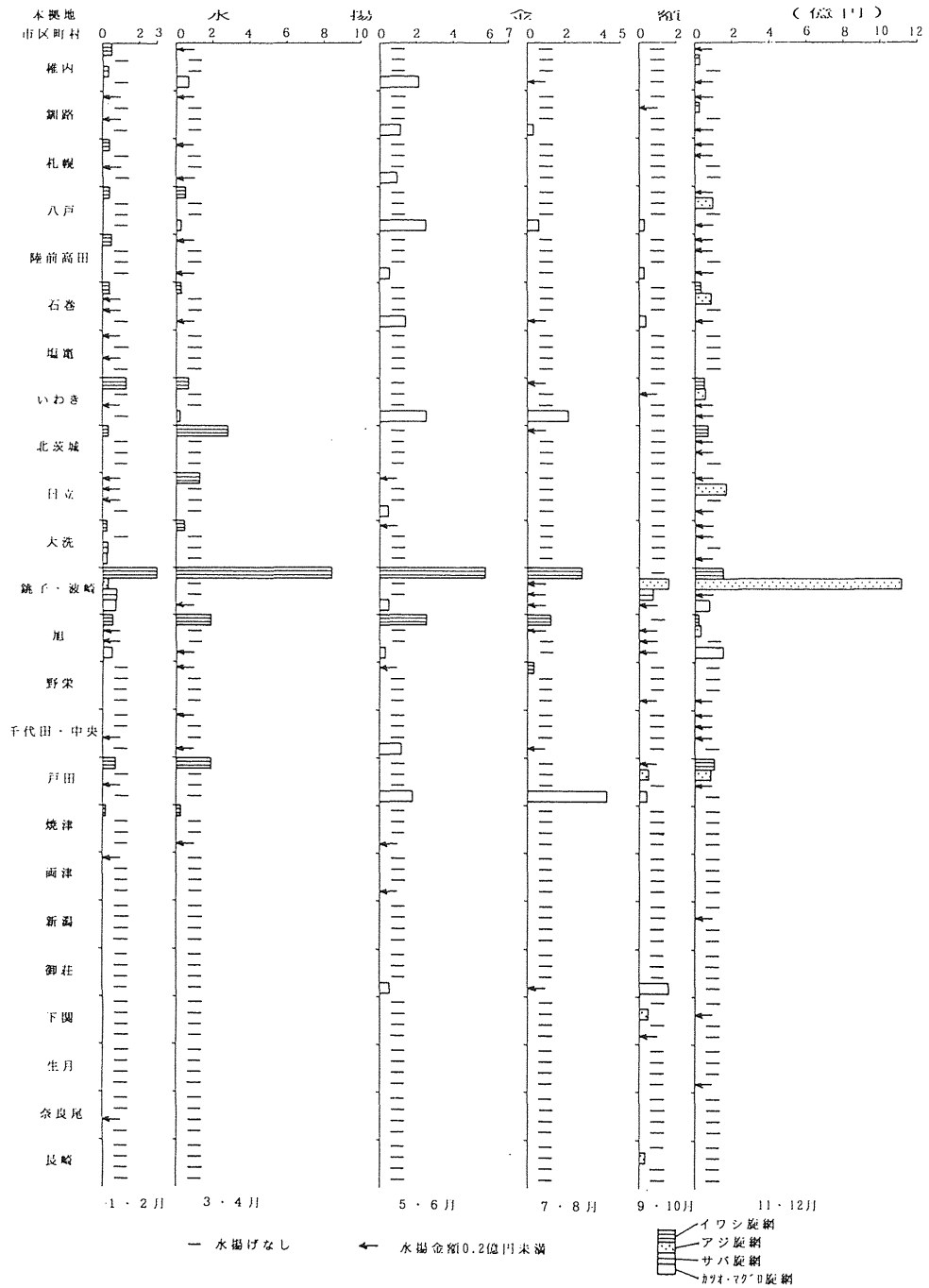
### 3) 1990年

1990年の銚子漁港における近海旋網漁船の水揚金額は、銚子・波崎、戸田を中核とし、旭、いわき、八戸、石巻、稚内、北茨城、日立、釧路の順に多かった(第5図)。全般に、1984年よりも西日本の漁船群の水揚げが減少した。

イワシ旋網の総水揚金額は48.4億円で、1984年の約半分となった。2か月間水揚金額は、1・2月が8.87億円、3・4月が20.0億円、5・6月が9.45億円、9・10月が0.05億円、11・12月が5.35億円であった。主要本拠地の分布域は、5・6月より水揚金額の少ない11・12月と、1月から4月に比較的広がった。中核的本拠地は、1・2月の銚子・波崎、いわき、3・4月の銚子・波崎、北茨城、5・6月の銚子・波崎、旭、11・12月の銚子・波崎、戸田、北茨城であった。このほか、1億円以上の水揚金額の主要本拠地には、3・4月の旭、戸田、日立、7・8月の銚子・波崎、旭があげられる。

アジ旋網の総水揚金額は20.9億円で、1・2月が0.39億円、7・8月が0.03億円、9・10月が3.14億円、11・12月が17.3億円で、9月から12月に水揚げが集中した。主要本拠地は、この水揚げ集中期に最も広く点在した。中核的本拠地には、9・10月の銚子・波崎、戸田、下関、奈良尾、11・12月の銚子・波崎が該当した。1億円以上の水揚金額の主要本拠地は、このほかに11・12月の日立がある。

サバ旋網の総水揚金額は3.3億円で、1984年の約2%、1975年の約18%に相当した。2か月間水揚



第5図 銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地別水揚金額の季節推移（1990年）  
（銚子漁港魚市場資料から作成）

金額は、1・2月が2.15億円、7・8月が0.02億円、9・10月が0.82億円、11・12月が0.31億円であった。中核的本拠地は、1・2月の銚子・波崎、稚内、大洗、9・10月の銚子・波崎だが、いずれもその水揚金額は1億円以下であった。



カツオ・マグロ旋網の総水揚金額は34.1億円で、1984年の85%に相当した。2か月間水揚金額は、1・2月が1.58億円、3・4月が1.73億円、5・6月が16.6億円、7・8月が8.34億円、9・10月が2.98億円、11・12月が2.86億円で、1975年及び1984年と同様に、5月から8月に水揚げが集中した。中核的本拠地は、5・6月のいわき、八戸、稚内、戸田、7・8月の戸田、いわきであった。1億円以上の水揚金額の主要本拠地には、このほか、5・6月の石巻、釧路、東京があった。

### Ⅲ 近海旋網漁船群の生産性別主要本拠地

#### Ⅲ-1 1回あたりの水揚量からみた主要本拠地

漁船の1回あたりの水揚量は、漁船の大きさあるいは漁獲物運搬能力、漁獲効率等を包含する漁獲能力を、量的に表わす。すなわち、この値が高いほど、その本拠地の近海旋網漁船の量的生産性が高い。銚子漁港に水揚げする近海旋網漁船の量的生産性は、魚種別にも全体的にも1975年から1984年へは上昇し、1984年から1990年へは減少した（第1表）。水揚量が合計の1%未満の主要本拠地を除き、量的生産性の上位3位までの本拠地を、ここでの中核的本拠地と考える。

1975年における中核的本拠地は、イワシ旋網がいわき、大洗、陸前高田、サバ旋網が戸田、下関、奈良尾、カツオ・マグロ旋網が戸田、日立、塩竈、全体では長崎、いわき、境港であった。銚子・波崎は、どの魚種でも全体でも、量的生産性が平均以下で、全般に西日本の漁船群の量的生産性の高さが際立っている。

1984年における中核的本拠地は、イワシ旋網が陸前高田、旭、いわき、サバ旋網が奈良尾、戸田、下関、カツオ・マグロ旋網がいわき、御荘、日立、全体では戸田、旭、いわきであった。地元の銚子・波崎は、サバ旋網と全体の量的生産性が平均以上であったが、あとは依然として平均以下であった。全般に、西日本の漁船群の量的生産性は1975年と同様に高いが、東日本の漁船群の量的生産性も平均以上が増加した。

1990年における中核的本拠地は、イワシ旋網が戸田、大洗、北茨城、アジ旋網が戸田、釧路、下関、サバ旋網が奈良尾、戸田、下関、カツオ・マグロ旋網が戸田、釧路、陸前高田、全体では戸田、北茨城、大洗であった。銚子・波崎の漁船群の量的生産性は、イワシ旋網と全体のみが平均以上であった。全般に、西日本漁船群の水揚量が減少したが、その量的生産性の東日本漁船群に対する相対的な高さは変わらなかった。

#### Ⅲ-2 平均魚価からみた主要本拠地

水揚げ漁船の平均魚価は、漁船の漁獲能力の質的生产性を示す指標となる。ここでは、平均魚価の最も高い主要本拠地を中核的本拠地とする。

イワシ旋網の中核的本拠地は、1975年が銚子・波崎、1984年が大洗、1990年が野栄で、いずれも銚子漁港に近接する本拠地であった（第2表）。これに対して、サバ旋網の中核的本拠地は、1975年が生月、1984年が留萌、1990年が奈良尾で、銚子漁港から最も遠距離の主要本拠地に分類される。カツオ・マグロ旋網の中核的本拠地は、1975年が大洗、1984年が塩竈、1990年が大洗で、いずれも寒流と

第1表 銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地（都市町村）別1回あたり水揚量（トン/回）  
（1975年，1984年，1990年）

全 体	イ ワ		シ		アジ		サ バ		カツオ・マダコ		全 体		
	1975年	1984年	1990年	1990年	1975年	1984年	1990年	1975年	1984年	1990年	1975年	1984年	1990年
銚子	41.3	109.0	106.5	28.4	87.8	106.0	53.1	8.0	17.9	15.6	45.1	100.8	77.1
内走	-	115.3*	61.4	33.7	-	117.6	188.0	-	-	16.8	-	81.8	44.0
網走	-	-	178.6*	64.8	-	157.6*	92.5	-	-	31.7	-	157.6*	86.5
留置	-	106.1*	-	-	-	144.2	-	-	24.2	-	-	117.6*	-
八戸	56.1	120.2	54.4	10.0*	78.5	143.8	45.0	9.5	13.0	17.0	78.5*	113.2	43.9
陸前高田	62.4	121.2	81.8	29.7	76.7	101.2	-	6.5	18.6	17.8	63.0	96.6	46.9
鹿巻	42.0*	131.9	59.7*	31.3	63.4	89.5	-	3.6*	22.0	26.8	57.6	92.9	48.7
鹿巻	52.4	179.9*	-	26.3	80.1	110.0*	-	8.6	14.4	-	63.9	63.8	-
石堀	-	115.2	48.2	-	75.0	86.9	54.5	13.3	20.5	16.4	54.0	76.6	36.8
北日	90.1	115.6	54.0	42.4	-	102.4	74.0	10.4	21.6	-	13.3*	92.0	64.0*
茨城	37.2	125.4	79.5	17.7*	119.6	135.4	37.8	7.8*	57.8	24.8	86.1	124.0	62.0
立洗	73.8*	106.0	139.5	29.2	26.1*	128.7	45.0	13.6	6.5*	10.2	36.1	108.5	134.8
波崎	75.1	121.6	117.3	42.5*	78.5	90.2*	9.0	4.1	36.6	7.3	58.5*	113.4	77.5
銚子	36.1	99.8	161.6	24.3	107.2	86.8*	135.0	11.2	16.4	4.1	69.3	80.9	115.0
野東	42.6	102.6	111.6	15.5	66.4	106.8	37.8	4.1	4.8	8.9	36.2	102.1	79.6
東京	25.2	131.1	91.8	-	39.1*	92.3	23.0	1.8*	3.3*	2.8*	42.3	125.1	71.4
水津	64.4*	48.4*	50.0*	10.5*	76.0	28.5*	-	11.1	15.1*	21.0	25.2	45.6*	39.3*
清焼	-	65.7*	182.0*	136.8	146.1	164.6	114.5	42.2	14.0*	42.1	55.6	167.8*	71.2*
南知	39.2*	-	250.8	-	40.7*	-	-	-	-	18.5*	132.2*	136.8	175.3
新洲	-	352.3*	59.5*	-	-	83.6*	-	-	-	-	39.6*	-	54.8*
輪島	-	95.6*	28.0	-	-	124.3*	-	-	3.5*	5.5*	-	97.4*	16.8*
港田	-	-	-	29.0*	-	174.7*	-	-	-	-	-	174.7*	16.8*
庄園	-	112.9*	-	-	-	99.8	-	-	0.2	-	-	101.2*	29.0*
月尾	-	165.1*	-	-	-	138.6*	-	-	-	-	-	138.6*	-
良長	-	140.6*	-	-	121.8	143.5	-	10.3	19.1	-	82.2	116.7*	-
	-	-	-	42.8	106.4	124.5	-	9.3	48.4	26.6	76.2	87.3	26.6*
	-	-	-	-	141.8	155.1	-	-	26.4*	0.6*	141.8*	155.1*	38.6*
	-	-	-	-	130.2	129.3	-	-	18.7*	10.0*	130.2*	125.6*	10.0*
	-	-	-	-	140.7	198.7	224.0	-	3.7*	-	140.7*	156.4*	224.0*
	-	-	-	37.8	111.7	137.4	-	-	27.9	-	91.7	108.2*	37.8*

（一）は水揚げなし，\*のついた数値はその水揚量が合計の1%未満，太字の数値は\*のつかない上位3つを示す；銚子漁港魚市場資料より集計・作成）

第2表 銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地（都市町村）別平均魚価（円/kg）  
（1975年，1984年，1990年）

全 体	イ		ウ		シ		アジ		サ		バ		カツオ・マグロ		全		体		
	1975年	1984年	1984年	1990年	1990年	1975年	1984年	1990年	1975年	1984年	1984年	1990年	1975年	1984年	1984年	1990年	1975年	1984年	1990年
銚子	22	19	19*	21	118	35	61	94	486	344	410	30	38	40	68	90			
内走	-	-	-	23	51	-	71	85	-	404	456	-	48*	48*	48*	48*			
路	-	-	-	25	44	-	48*	79	-	-	299	-	-	-	-	-			
萌	-	-	14*	21	55*	26*	73	93	-	171	350	-	70	70	70	71			
幌	-	-	19*	22	137	24	43	55	445	278	432	26*	38	38	38	53			
戸	19	17	18	26	60*	27	59	-	502	228	303	25	37	37	96	96			
田	17	17	17	26	60*	27	59	-	502	252	303	24	41	41	60	60			
陸	18*	20*	20*	27	108	31	44*	-	656*	560	435	29*	103*	103*	103*	103*			
前	15	18	18	27	108	35	65	96	494	348	435	49	60	60	80	80			
石	-	17*	17*	33*	71	-	42*	82	464	602	435	464*	54	54	61*	61*			
塩	21	20	20	23	134*	39	65	83	464	602	435	464*	54	54	61*	61*			
い	20	20	20	16	128	21*	60	47*	505	194	409	38	53	53	64	64			
北	14*	19	19	17	128	39	39*	122	571*	500*	439	22	34	34	17	17			
日	22	23	23	18	18*	43	64	110	336	168*	486	47	23*	23*	35	35			
大	23	20	20	20	132	23	61	119	514	333	411	42	45	45	31	31			
子	22	19	19	23	113	12*	45	103	507	457	365	25	30	30	31	31			
野	19	27*	27*	31	107*	-	66*	-	482*	378*	225*	22	21	21	32	32			
東	17	30*	30*	19*	105	28	53*	65	417	1223*	225*	19*	53*	53*	34*	34*			
京	-	-	-	23	105	48	69	71	463	577	470	40	53*	53*	89	89			
田	-	-	-	24*	-	20*	-	-	-	-	-	66	67	67	62	62			
水	-	-	-	24*	-	-	48*	-	-	-	220*	17*	-	-	32*	32*			
津	-	-	-	34*	-	-	72*	-	-	3165*	-	-	-	-	48*	48*			
多	-	-	-	-	61*	-	-	-	-	-	335*	-	-	-	83*	83*			
津	-	-	-	-	-	-	80*	-	-	-	-	-	-	-	80*	80*			
洲	-	-	-	-	-	-	62	-	-	-	-	-	-	-	50*	50*			
島	-	-	-	-	-	-	70*	-	-	730*	-	-	-	-	70*	70*			
港	-	-	-	-	-	45	60	-	508	318	-	66	68	68	68	68			
境	-	-	-	-	-	38	61	-	496	182	464	56	84	84	464	464			
庄	-	-	-	-	131	46	47	-	-	-	22*	46	47	47	47	47			
関	-	-	-	-	-	50	67	-	-	11*	342*	50*	66	66	342*	342*			
月	-	-	-	-	-	47	45*	237	-	207*	-	47*	50*	50*	47*	47*			
尾	-	-	-	-	155	49	50	-	549*	255	-	53	64	64	155*	155*			
鹿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
角	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

（一）は水揚げなし，\*のついた数値はその水揚金額が合計の1%未満，太字の数値は\*のつかない最上位を示す；銚子漁港魚市場資料より集計・作成）

暖流が混合する潮境海域沿岸の主要本拠地であった。アジ旋網の1990年における中核的本拠地は長崎で、これは九州西方海域でのアジ漁獲の経験が豊かな本拠地である。全体では、中核的本拠地は1975年が戸田及び境港、1984年が御荘、1990年が御荘で、西日本の漁船群が質的に高い漁獲能力を有する。

### III-3 1回あたりの水揚金額からみた主要本拠地

漁船の1回あたりの水揚金額は、漁船の経済生産性を示す指標となる。各漁船ごとの必要経費を考慮していないため、いわば、粗収入を稼ぐ能力の大きさを意味する。ここでは、水揚金額が全体の1%未満であった主要本拠地を除き、経済生産性の上位3位までの本拠地を中核的本拠地と考える。

イワシ旋網の場合、中核的本拠地は、1975年が大洗、いわき、東京、1984年がいわき、旭、大洗、1990年が戸田、釧路、大洗であった(第3表)。3年次の主要本拠地を比較すると、大洗といわきが重要な本拠地であったことがわかる。アジ旋網は、1990年において戸田、長崎、下関を中核的本拠地とし、西日本漁船群の経済生産性の高さを示した。

サバ旋網の場合、中核的本拠地は1975年が戸田、奈良尾、下関、1984年が戸田、留萌、境港、1990年が稚内、大洗、東京であった。3年次の主要本拠地を比較すると、戸田と西日本の漁船群が効率のよい水揚げの中心であったことは明らかである。

カツオ・マグロ旋網の中核的本拠地は、1975年が戸田、塩竈、大洗、1984年が塩竈、いわき、御荘、1990年が戸田、御荘、いわきであった。3年次の主要本拠地を比較すると、戸田、いわき、塩竈、御荘の4本拠地が、特に重要な本拠地であったことがわかる。

全体では、戸田、御荘、いわき、下関、長崎が、3年次を通じて高い経済生産性を示す主要本拠地で、ここでも、西日本漁船群の効率的な漁獲能力が確認される。

## IV む す び

以上の水揚げの年次・季節変化に関する分析をもとに、銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地の変動をまとめると、以下のようになる。

1975年の銚子漁港における近海旋網漁業は、1・2月に銚子・波崎、いわき、陸前高田、旭が中核の漁船群がイワシ類を、銚子・波崎が中核の漁船群がカツオ・マグロを水揚げし、3・4月にはさらに北方の漁船群が加わって、八戸、石巻、いわき、銚子・波崎が中核の漁船群がマサバを水揚げした。5月から8月はカツオ・マグロの水揚げが集中し、その中核は石巻、いわきの漁船群であった。9・10月の旋網の水揚げは少なかったが、11・12月には西日本の漁船群も加わり、いわき、石巻の漁船群を中核にマサバが大量に水揚げされた。西日本漁船群の漁獲能力の高さは抜群で、総量的には中核にはならなかったが、技術的には東日本の漁船群を刺激したと伝えられる。

1984年の銚子漁港における近海旋網漁業は、1975年と水揚げの季節変化が類似する。異なるのは、第1に、5・6月に海域を北上するイワシを銚子・波崎、旭が中核の漁船群が大量に水揚げしたことである。第2に、マサバの3・4月の水揚げ集中期が1・2月に前にずれ、戸田の漁船群が中核に加わったこと、11・12月の中核本拠地の石巻が銚子・波崎に入れ替わったことである。第3は、カツオ・

第3表 銚子漁港における近海旋網漁船の主要本拠地（都市町村）別平均水揚金額（万円/回）  
（1975年，1984年，1990年）

全 体	イ		ウ		シ		アジ		サ			カツオ・マゴロ			全 体	
	1975年	1984年	1984年	1990年	1990年	1975年	1984年	1990年	1975年	1984年	1990年	1975年	1984年	1990年	1975年	1990年
銚子	90	211	220	336	310	642	500	390	662	641	135	384	312			
内走	-	216*	139	171	-	832	1597	-	722	764	-	559	397			
網	-	-	453	282	-	751*	733	-	-	-	-	751*	614			
胡	-	151*	-	-	-	1059	-	-	412	947	-	-	-			
幌	-	230*	114	55*	205*	613	417	-	362	965	205*	432	234			
戸	104	212	180	408	186	553	-	424	425	768	155	360	452			
田	109	221	155	187*	173	528	-	325	554	812	137	380	294			
陸前	74*	363*	-	-	252	479*	-	236*	805	-	187*	656*	-			
高	79	210	132	285	261	566	525	427	712	715	262	458	294			
田	-	194*	176*	-	-	435*	608	618	1302	-	618*	497	392*			
巻	191	249	185	299	466	875	312	525	1124	1012	329	653	397			
竈	75	208	228	236*	61*	778	210*	443*	327*	-	79	368	228			
城	107*	230	200	373	305	350*	109	457	614*	447	273	265*	271			
立	162	232	200	76*	459	555	1481	575	548	352	291	365	354			
洗	84	202	225	322	154	646	448	209	220	169	89	303	250			
波	93	247	209	176	46*	412	237	67*	123*	324	92	266	229			
崎	48	132*	155	-	-	189*	-	-	1840*	64*	48*	244*	135*			
旭	110	-	346*	112*	210	893*	904	463	806	787	222	893*	632			
栄	63*	198*	575	1437	704	1142	812	1952	-	1977	870	921	1078			
京	-	-	-	-	80*	-	-	-	-	-	67*	-	-			
田	-	776*	145*	-	-	404*	-	-	-	406*	-	450*	175*			
津	-	164*	-	-	-	890*	-	-	1108*	-	-	468*	-			
多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
津	-	-	96*	176*	-	1405*	-	-	-	184*	-	1405*	140*			
湯	-	-	-	-	-	616	-	-	-	-	-	-	176*			
洲	-	214*	-	-	-	975*	-	-	15*	-	-	501*	-			
島	-	-	-	-	-	865	-	-	-	-	-	975*	-			
津	-	583*	-	-	548	761	-	524	608	-	540	975*	-			
島	-	267*	-	-	407	734	-	463	882	1236	424	737	1236			
港	-	-	-	559	658	862	-	-	-	1*	658	734	503*			
荘	-	-	-	-	657	862	-	-	28*	342*	657*	833	342*			
閏	-	-	-	-	660	902*	531	202*	386*	-	660*	781*	531*			
月	-	-	-	588	548	690	-	-	712	-	484	696	588*			
尾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

（一は水揚げなし，\*のついた数値はその水揚金額が合計の1%未満，太字の数値は\*のつかない上位3つを示す；銚子漁港魚市場資料より集計・作成）

マグロの水揚げ集中期が、5月から10月にかけてと、長期化したことである。すなわち、漁獲資源の増加と漁獲技術の向上があいまって、年間を通じての近海旋網漁船の水揚げが魚種を変えながらも、途切れないようになった。これは、銚子漁港において近海旋網漁船による大量水揚げが実現する、水揚げの最良の季節変化と考えられる。

1990年の銚子漁港における近海旋網漁業は、1984年と水揚げの季節変化が基本的には類似する。異なるのは、第1に、イワシ旋網の中核本拠地に3・4月の北茨城、5・6月の旭が加わり、11・12月にも銚子・波崎、戸田、北茨城の漁船群を中核にイワシ類が大量水揚げされたことである。第2に、アジ類の水揚げが大量化し、9月から12月にかけて銚子・波崎、戸田、下関、奈良尾の漁船群を中心に大量水揚げがあったことである。サバ旋網は資源減少のためか、11・12月の大量水揚げ期が消え、中核的本拠地が1・2月と9・10月の銚子・波崎、1・2月の稚内、大洗に替わった。カツオ・マグロ旋網は、大量水揚げ期が1975年と同じになり、中核的本拠地の陸前高田と石巻、御荘が八戸、稚内、戸田に交代した。全体的に、1990年における近海旋網漁船による大量水揚げの連続性は、1984年よりも低下した。

水揚げ総量における中核的本拠地は、戸田と御荘を除くと、いずれも、銚子・波崎を含む東日本の主要本拠地であった。これに対して、量的生産性、質的生产性、経済生産性は、いわき、大洗、戸田、御荘及び下関を含む九州漁船群が主導的役割を果たした。特に、西日本漁船群は、総量的には少なくとも、その漁獲・水揚げ能力の高さが銚子漁港に際立った。銚子・波崎は、いずれの生産性においても中核的本拠地になり得なかった。銚子・波崎は、総量では中核的本拠地であっても、生産性、あるいは漁獲技術において主導的な地位に未だいたっていない。これは、銚子・波崎の近海旋網漁船群が、漁獲資源の豊度に大きく左右されること、その漁業技術、経営上の改善余地がまだある可能性を意味する。

この報告の資料収集については、銚子市漁業協同組合市場部・総務部の方々に大変お世話になりました。ここに記して感謝申し上げます。

#### 文献・注

- 1) 銚子沖合で操業する主力の大中型近海旋網漁船は、総トン数が80トンあるいは110トンから135トンの本船（漁網積載船）1隻、200トン前後の魚運搬船2隻、100トン前後の魚群探索船1隻と1トン前後のレッコボート（旋網作業船）1隻で通常の1船団を成す。
- 2) 篠原秀一（1988）：茨城県波崎町における漁港漁業の発達。地域調査報告, 10, 59-76.  
篠原秀一（1989）：銚子における漁港漁業の発展。地理学評論, 62, 792-811.
- 3) この基準は、銚子漁港に2回以上水揚げした近海旋網漁船の最低水揚量、最低水揚金額として設定した。
- 4) 同時期における銚子漁港の総水揚量は、1974年の19万5,501トンから1984年の81万9,116トンへ増加し、その後、1989年及び1990年の30万トン前後まで減少した。
- 5) 波崎船は、1985年12月から地元波崎の新漁港に漁獲物の多くを水揚げするようになり、銚子漁港における水揚量が1986年以降激減した。

## Headquarters' Places of Main Round Haul Netters Seasonally Based on Choshi Fishing Port

Shuichi SHINOHARA

This paper tries to examine headquarters' places of main round haul netters seasonally based on Choshi Fishing Port in 1975, 1984, and 1990. From the viewpoint of sum total of fish landing, Choshi in Chiba Prefecture, Hasaki nearby Choshi in Ibaraki Prefecture, and places along the Pacific coast in the eastern Japan were leading headquarters' places at Choshi Fishing Port. But, from the viewpoint of efficiency of fish landing, the leading headquarters' places were located in Iwaki in Fukushima Prefecture, Oarai in Ibaraki Prefecture, Heta in Shizuoka Prefecture, Misho in Ehime Prefecture, and Northern Kyushu including Shimonoseki in Yamaguchi Prefecture.